

# 地域福祉計画(素案)に対する意見公募(パブリックコメント)整理表

No	提出者	意見要旨	回答
1	ア	言葉や文章がわかりづらいので、地域に暮らしている住民が読んでわかるような簡単な表現にしてほしい。	ご指摘につきましては、計画の重要な視点として認識しております。本計画においては、3月末までに作成する概要版でわかりやすくお伝えできるよう努めてまいります。
2	ア	構成として、本計画の大切な部分である第3章・第4章を前に出し、第1章・第2章はそのあとでよいのではないかと。	計画の構成については、本計画の附属機関である鎌倉市地域福祉計画推進委員会においても議論され、ご意見と同じ提案もありました。しかし、施策を進めるにあたって、基本となる情報からご説明すべきだとの見解でまとまったことから、調査結果などの詳しい情報は後半に移動し、第1章、第2章の記述を簡潔に記述する現在の形といたしました。
3	ア	地域アセスメントは地域の課題を明らかにするだけでなく、本計画の重点目標である「地域における福祉活動や人材への派遣」を展開し推進する上で非常に大切なアイテムとして考えるので、地域アセスメントの必要性を是非とも本計画の中に盛り込んでいただきたい。	地域アセスメントにかかる具体的な取組等については、本計画と連携する鎌倉市社会福祉協議会策定の「かまくらささえあい福祉プラン」において記述されているので、市といたしましては、ご意見を踏まえて、第4章に記載の取組内容のうち、地区社会福祉協議会への支援についての取組に地域アセスメントの表現を明記いたしました。
4	ア	鎌倉市地域福祉計画の内容を要約したダイジェスト版の作成を考えていただきたい。	ご意見と同じく本市でも必要と考えており、本計画の概要版を、令和2年3月末までに作成します。概要版は、地域の皆様のお手に取っていただけるよう各所で配布する予定です。
5	イ	地域生活サポートセンターとらいむの開いている時間を延長してほしい(10時～17時など)	地域生活サポートセンターとらいむの開所時間については、休日の開所等人員体制などを総合的に判断した結果、現在の開所時間としております。地域生活サポートセンターとらいむが、地域におけるよい居場所になっていると捉え、委託事業者にご意見をお伝えいたします。
6	イ	旧鎌倉地区は物価が高いので、安価な衣料店や飲食店を誘致してほしい。	小売店や飲食店の出店は、各事業者が商圈として成立するかを判断して決定するものです。現状、特定の事業者の誘致はしていない状況です。ご意見も踏まえながら、地域生活がよりよくなるような施策の検討を進めてまいります。
7	イ	「障害者も共生を」と言われるが実際はさまざまな要因から孤立している。「共生」を目指すならばもっと教育が必要。	ご意見につきまして、本市といたしましても「共生意識の形成(4-1-6-3)」の取組として、各種研修等を通じ、共生意識の形成を図ってまいります。
8	ウ	市役所の深沢移転に反対。	現庁舎は、建築後50年が経過し、建物や設備の老朽化や、利用される規模と比較して狭いことなど、多くの課題があります。今後も市民の皆さまに新しい市役所や、現庁舎の跡地を親しみをもって利用していただくよう検討してまいります。
9	ウ	とらいむの開所時間を早めてほしい(9時又は10時)また休日も開所して欲しい。	地域生活サポートセンターとらいむの開所時間については、休日の開所等人員体制などを総合的に判断した結果、現在の開所時間としております。地域生活サポートセンターとらいむが、地域におけるよい居場所になっていると捉え、委託事業者にご意見をお伝えいたします。
10	ウ	障害基礎年金の金額をもっと上げてほしい。	障害基礎年金の額については、国の制度において定められているものであるため、市で変更はできませんが、市の取組のなかで地域生活がよりよくなるよう施策を進めてまいります。
11	ウ	鎌倉市にJリーグチームが欲しい。	Jリーグのチームを誘致することについては難しいと認識しているところですが、本市は平成29年(2017年)から湘南ベルマーレのホームタウンに追加されました。そのため本市は、ホームタウンとして、湘南ベルマーレを地元のサッカーチームと認識し、市を挙げて応援してまいります。
12	ウ	楽器店、CD販売店、レンタルショップが欲しい。電気店が欲しい。ファーストフード店をもっと作ってほしい。安価な衣料店が欲しい。安価な床屋が欲しい。	小売店や飲食店の出店は、各事業者が商圈として成立するかを判断して決定するものです。現状、特定の事業者の誘致はしていない状況です。ご意見も踏まえながら、地域生活がよりよくなるような施策の検討を進めてまいります。
13	ウ	心療内科をもっと作ってほしい。B型作業所をもっと作ってほしい。	心療内科については近隣市も含め、一定数の開業を確認しております。医院の開設事務については、市は直接の管轄ではありませんが、ご相談等がありましたら対応していきたいと考えております。また、いわゆるB型作業所などの就労継続支援事業所については、本市として新規開設に向けた支援をするための補助制度を用意しています。
14	ウ	扇ガ谷にも小型バスを通してほしい。	本計画において、外出支援と社会参加の促進を図るため、高齢者が安全で快適に移動できる交通環境づくりを検討してまいります。
15	エ	年金月65,000円で生活できる地域を作ってほしい。家賃扶助だけでも欲しい。	地域において市民の皆様がいきいきと生活できるよう、地域での生活支援に取り組んでまいります。なお、経済面で生活でお困りのことがありましたら、生活支援などを実施している本市の生活福祉課までご相談ください。
16	オ	視覚障害者のため、完成した計画にはデジジーを用意してほしい。	ご意見のとおりと本市でも考えており、令和2年度において計画の点訳版、デジジー仕様のCDを作成する予定です。

## 地域福祉計画(素案)に対する意見公募(パブリックコメント)整理表

No	提出者	意見要旨	回答
17	オ	策定委員会に障害のある当事者を増やし、もっと現場の声を聴いてほしかった。	本計画の策定にあたり、広く地域の課題を把握し、幅広いご意見をいただく観点、また、高齢者・障害者・こどもの各福祉分野の諸計画の上位的な計画に位置づけられることから、限られた委員数を考慮し、各福祉分野に関係する団体や地域福祉の担い手である団体等から、策定委員会の委員のご推薦をいただきました。さらに、市民から委員を募り、鎌倉市地域福祉計画推進委員会に参加してご意見をいただいております。
18	オ	この計画の策定状況(委員会の開催や傍聴募集など)も情報が届いていない。視覚障害者に対する情報提供について検討してほしい。	市が行う情報発信の方法について、「情報発信の共生化の推進(5-2-1-2)」の取組として、必要な情報が適切に提供できるよう検討してまいります。
19	カ	福祉総合相談窓口がワンストップなのか疑問に思った。結局は別の窓口に戻されるのでは。区分けが曖昧な印象を受けた。	現状の課題として認識しておりますので、今後の事業の実施において検討してまいります。
20	キ	調査結果をみると、鎌倉市の地域福祉における最重要課題は、増え続ける一人暮らし高齢者の見守りだと感じる。その中でも、自治会に入会しない人が増えている中で、今の自治会に地域福祉の受け皿としての役割を期待するのは難しいのではないか。役員の成り手も限られており、特に民生委員の成り手を探すが困難。その中で高齢者の見守りという責任の重い負荷がかかるとさらに成り手がなくなってしまうと思う。	現状の課題として認識しております。個々の施策を進めていくなかで、活動の支援を行っていくほか、自治会町内会役員や民生委員の方に役割が偏らないよう検討を進めてまいります。
21	キ	健康状態の見守りという点では、デジタルツールを使い、地域のかかりつけ医と連携すれば健康に異常が起きる前の声掛けや予防措置を取れるのではないかと。	本計画においては、健康状態の見守りに関する取組として、保健師等による訪問支援により、健康面での問題を抱える人への支援を行うこととしています。
22	キ	図書館、公民館などの講座や講演会を一方的に発信するのではなく、受ける側の反応を得るよう対話型で行えばコミュニティ活動への関心が高まるのではないかと。窓口の充実が必要だが受け身なので積極的な施策を提案されたい。	情報発信については現状の課題として認識しております。ご提案を踏まえ、今後の事業の実施において多様な方法を検討してまいります。
23	ク	公助(予算)があつての地域福祉を進めて欲しい。	地域福祉計画においては、「自助・互助・共助・公助」の役割を固定的に捉えるのではなく、それぞれが連携しながらバランスのとれた形で役割りを果たしていくことが必要だと考えています。公助を進めるにたり、予算については、市の施策全体の優先順位をつけ、総合的に判断しながら推進してまいります。
24	ク	相談窓口の充実のために、福祉専門職(要経験者)を中途採用して欲しい。	採用担当部署と調整しながら検討してまいります。
25	ケ	現在の市ホームページがわかりにくい。PCで見ると、メイン画面までスクロールしなくても重要な情報が目に入るレイアウトにしたほうが良い。	情報発信については現状の課題として認識しております。広報担当部署と調整しながら、今後の事業の実施において検討してまいります。
26	ケ	福祉分野にはさらに予算を投じて、75歳(80歳)以上の独居世帯や子育て世帯には定期的に巡回するくらいでちょうどよいのではないかと。ただし、押し付けにならないよう配慮が必要となるので、必要なサポートを検証するとよい。	日常の見守り体制については、地域での各種活動を尊重しながら、さらに各関係機関との連携等により、重層的な見守り体制づくりを進めてまいります。今回のご提案につきましては、今後の取組の参考といたします。
27	ケ	さらに現実的な日常生活に即したサポートをして欲しい。また、各機関や団体に入り込んで、足並みのそろったサポート体制を確立して欲しい。	各関係機関と連携し、包括的支援体制の構築を進めてまいります。具体的にご要望につきましては、今後の取組の参考といたします。
28	ケ	市民アンケートの対象者数が少ないので検証したと感ぜられない。回収率を考えても趣旨が伝わったと感ぜられないので、趣旨や重要性を理解するための機会を設けてはどうか。	次回策定時の参考といたします。
29	コ	計画で示した社会は素晴らしいが、現実には財源が不足している。予算がなくて計画も実現できない。予算が不足している以上、必要以上の公費の支出(要支援・要介護、障害者、生活保護などにかかる費用)は抑えるよう、運用に基準を設けるべきではないかと。	公費の支出抑制については、本市の行財政運営において重要な視点として、各施策を進めてまいります。